

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 2002062952 A

(43) Date of publication of application: 28.02.02

(51) Int. Cl

G06F 1/26
G06F 1/32
H01M 10/44
H01M 10/48
H02J 1/00
H02J 7/34

(21) Application number: 2000247049

(22) Date of filing: 16.08.00

(71) Applicant: INTERNATL BUSINESS MACH CORP <IBM>

(72) Inventor: ODAOHARA SHIGEFUMI

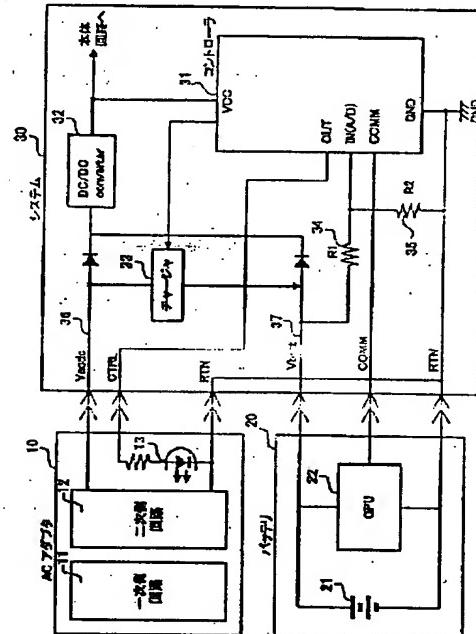
(54) POWER SUPPLY DEVICE, ELECTRICAL APPARATUS, COMPUTER DEVICE AND POWER SUPPLY METHOD

(57) Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To significantly reduce the power loss in the power supply off or light load of an electronic apparatus having a power source part such as AC adaptor connected thereto.

SOLUTION: This device comprises an AC adaptor 10 for supplying an external power to a system 30, a battery 20 to be on the basis of the power supplied from the AC adaptor 10 and also supply the charged power to the system 30 by discharging the power, and a controller 31 for controlling the supply of power from the AC adaptor 10 and battery 20 to the system 30. When the system 30 is in power supply off or light load in the state where the AC adaptor 10 is connected to the system 30, the controller 31 stops the supply of power from the AC adaptor 10 to the system 30 to supply the power from the battery 20.

COPYRIGHT: (C)2002,JPO



(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2002-62952

(P2002-62952A)

(43)公開日 平成14年2月28日 (2002.2.28)

(51)Int.Cl.⁷

識別記号

G 0 6 F 1/26

1/32

H 0 1 M 10/44

10/48

H 0 2 J 1/00

3 0 6

F I

テマコード(参考)

H 0 1 M 10/44

P 5 B 0 1 1

10/48

P 5 G 0 0 3

H 0 2 J 1/00

3 0 6 K 5 G 0 6 5

7/34

C 5 H 0 3 0

F

審査請求 有 請求項の数13 OL (全10頁) 最終頁に続く

(21)出願番号 特願2000-247049(P2000-247049)

(22)出願日 平成12年8月16日 (2000.8.16)

(71)出願人 390009531

インターナショナル・ビジネス・マシーンズ・コーポレーション

INTERNATIONAL BUSINESS MACHINES CORPORATION

アメリカ合衆国10504、ニューヨーク州
アーモンク (番地なし)

(72)発明者 織田大原 重文

神奈川県大和市下鶴間1623番地14 日本アイ・ビー・エム株式会社 大和事業所内

(74)代理人 100086243

弁理士 坂口 博 (外4名)

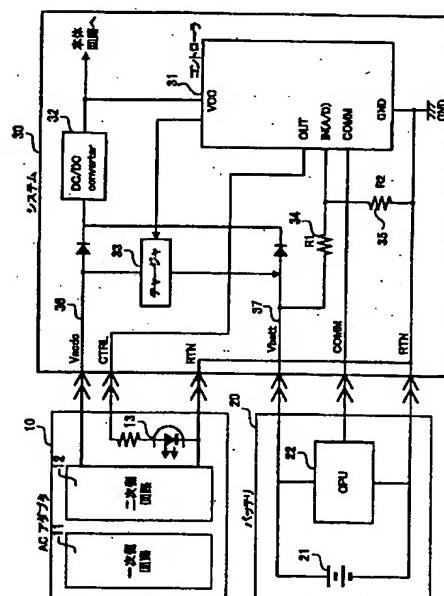
最終頁に続く

(54)【発明の名称】電源供給装置、電気機器、コンピュータ装置、および電源供給方法

(57)【要約】

【課題】ACアダプタ等の電源部を接続した電気機器等において、電源オフ時や軽負荷時における電力ロスを大幅に削減する。

【解決手段】システム30に対して外部から電力を供給するACアダプタ10と、このACアダプタ10から供給される電力に基づいて充電されると共に、充電された電力を放電することでシステム30に対して電力を供給するバッテリ20と、ACアダプタ10およびバッテリ20からシステム30に対する電力の供給を制御するコントローラ31とを備え、このコントローラ31は、ACアダプタ10がシステム30に接続された状態にてシステム30が電源オフまたは軽負荷時のときに、ACアダプタ10からシステム30に対する電力の供給を停止してバッテリ20からシステム30に対して電力を供給する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 システムに対して外部から電力を供給する電源部と、

前記電源部から供給される電力に基づいて充電されると共に、充電された電力を放電することで前記システムに対して電力を供給するバッテリと、

前記電源部および前記バッテリから前記システムに対する電力の供給を制御する電力供給制御回路とを備え、

前記電力供給制御回路は、前記電源部が前記システムに接続された状態にて当該システムが電源オフまたは軽負荷時のときに、当該電源部から当該システムに対する電力の供給を停止して前記バッテリから当該システムに対して電力を供給することを特徴とする電源供給装置。

【請求項2】 前記電力供給制御回路は、前記システムが電源オフ時または軽負荷時のときに、前記電源部におけるスイッチング動作を停止させて消費電力を低減させることを特徴とする請求項1記載の電源供給装置。

【請求項3】 前記電力供給制御回路は、前記バッテリにおける残容量が放電によって所定量を下回った状態にて、前記電源部から前記バッテリに対して電力を供給して充電を行うことを特徴とする請求項1記載の電源供給装置。

【請求項4】 AC電源に接続されると共に、電気機器に接続して電力を供給するACアダプタと、

前記ACアダプタから供給される電力に基づいて充電されると共に、充電された電力を放電することで前記電気機器に対して電力を供給するバッテリと、

前記ACアダプタが前記電気機器に接続され、且つ当該電気機器が電源オフまたは軽負荷の状況において、前記バッテリから当該電気機器に対する電力の供給を賄うように制御するコントローラとを備えたことを特徴とする電源供給装置。

【請求項5】 前記コントローラは、前記電気機器が電源オフまたは軽負荷の状況にて、前記ACアダプタの動作を停止するように制御することを特徴とする請求項4記載の電源供給装置。

【請求項6】 前記コントローラは、前記バッテリにおける残容量を認識し、認識された残容量が所定量を下回った場合には、前記ACアダプタの動作を開始して当該バッテリに対する充電を行うように制御することを特徴とする請求項5記載の電源供給装置。

【請求項7】 前記コントローラは、前記バッテリにおける充電の終了により前記ACアダプタの動作を停止するように制御することを特徴とする請求項6記載の電源供給装置。

【請求項8】 外部電源から電力を供給する電源部と充放電を繰り返して電力を供給するバッテリとに本体が接続される電気機器であって、

前記バッテリにおける電池容量を認識する電池容量認識手段と、

前記電池容量認識手段により認識された電池容量が所定量以上であるか否かを判断する判断手段と、

前記本体が電源オフまたは軽負荷の状態にて、前記判断手段によって電池容量が所定量以上であると判断される場合には、前記バッテリから当該本体に対して電力を供給するバッテリ電力供給手段と、

前記電源部の動作を停止する電源動作停止手段とを備えたことを特徴とする電気機器。

【請求項9】 前記判断手段は、前記バッテリ電力供給手段により電力が供給された後の電池容量が所定量以上であるか否かを判断し、

前記判断手段により前記バッテリの電池容量が所定量よりも少ないと判断される場合に、前記電源部を動作させて当該バッテリへの充電を行う充電手段とを更に備えたことを特徴とする請求項8記載の電気機器。

【請求項10】 ACアダプタが接続可能であり、且つパワーオフ時でも所定の電力を消費するコンピュータ装置であって、

充放電が繰り返される2次電池に接続して電力の供給を可能とする電源路と、

前記パワーオフ時において、接続された前記ACアダプタの動作を停止させると共に、前記電源路を介して前記バッテリから前記所定の電力に必要な電力供給を賄うように制御するコントローラとを備えたことを特徴とするコンピュータ装置。

【請求項11】 前記コントローラは、前記所定の電力に必要な電力供給を賄うことにより減少した前記2次電池の残容量を把握し、把握された残容量が所定量を下回った場合には、前記ACアダプタを動作させて当該2次電池に対する充電を行うように制御することを特徴とする請求項10記載のコンピュータ装置。

【請求項12】 外部から電力を供給する電源部と充放電を繰り返して電力を供給するバッテリとに接続された電気機器における電源オフ時または軽負荷時の電源供給方法であって、

前記バッテリの電池容量を認識し、

前記バッテリにおける認識された電池容量が所定量以上である場合に前記電源部の動作を停止させ、

前記電気機器における電源オフ時または軽負荷時の電力供給を前記バッテリの放電によって賄うことを特徴とする電源供給方法。

【請求項13】 前記バッテリの放電によって変化する当該バッテリの電池容量を認識し、

前記バッテリにおける認識された電池容量が所定量より小さくなった場合に前記電源部を動作させ、

前記電源部から前記バッテリに対する充電を行うことを特徴とする請求項12記載の電源供給方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、電源供給装置等に

係り、特に、ノートPC(ノート型パーソナルコンピュータ)等の電力ロスを低減する装置、方法等に関する。

【0002】

【従来の技術】現在、ノートPCに代表される情報端末機器等、ACアダプタとバッテリを備えた電気機器では、電源オフ時の無負荷状態に近い時、またはサスベンド等の軽負荷時にも、ACアダプタ内部における電力変換ロスが常時発生している。このとき、ACアダプタ内部だけでなく機器本体の内部回路においても電力を消費している。

【0003】図6は、従来のACアダプタを使用した際、電源オフ時における電力消費の状態を示した図である。より具体的には、ACアダプタをノートPC等に接続し、このノートPC等にはパワーオンを施さないような状態を想定している。同図において横軸は時間であり、縦軸は電力消費を示している。ここで、電気機器(ノートPC等)の内部回路による電力消費(System Power Dissipation)と、ACアダプタによる電力変換ロス(Power Loss by AC adapter)との合計がトータルの電力ロスである。電気機器の内部回路では、電源オフ時であっても電池を充電したりするための制御用コントローラ等が常に動いていなければならぬので、ある程度の決まった電力を消費し続けることになる。

【0004】例えば、電気機器としての一例であるコンピュータ装置においては、電源オフ時においても、タイマ起動等所定の機能を実現するために、タイマやキーボード/マウス・コントローラ等に電力が供給されている(このように、電源オフされたときにも電力の供給を受けるコンポーネントを本願明細書において「電源オフ時稼動コンポーネント」と呼ぶ)。この一方、電源オフ時には、メインCPU等、その他のコンポーネントへの電力は遮断され、不必要的電力消費が防止されている(このように、電源オフされたときには電力の供給が遮断されるコンポーネントを本願明細書において「電源オフ時非稼動コンポーネント」と呼ぶ)。

【0005】ここで、電源オフ時に、電源オフ時稼動コンポーネントに電力を供給し、電源オフ時非稼動コンポーネントへの電力を遮断する方法として、電源オフ時非稼動コンポーネントへの電力供給を行っているDC/DCコンバータの出力電圧を遮断する方法がある。また、DC/DCコンバータが、電源オフ時非稼動コンポーネントと電源オフ時稼動コンポーネントとの双方への電力供給を中継している場合には、DC/DCコンバータの出力電圧を遮断するのではなく、DC/DCコンバータの出力電圧を電源オフ時非稼動コンポーネントに中継するFET(電界効果トランジスタ)をオフする等の方法が従来より採用されている。

【0006】この一方、特にノートPC等において、バッテリの消費を防止するために、一定時間、ノートPCへのアクセスがないとき等にサスベンドし(軽負荷状

態)、サスベンド前の状態に復帰させるために必要なコンポーネント(メインメモリ、キーボード/マウス・コントローラ、VRAM等)以外のコンポーネント(メインCPU、CRT等)への電力供給を遮断している。本願明細書において、このように軽負荷時に電力の供給を受けるコンポーネントを「軽負荷時稼動コンポーネント」、軽負荷時に電力の供給が遮断されるコンポーネントを「軽負荷時非稼動コンポーネント」と呼ぶ。

【0007】ノートPC等の電気機器の内部による電力消費は、図6の下部領域部分で表現され、常時、約0.

10 35Wの電力消費が発生している。また、ACアダプタが動作する際には、ACアダプタや機種毎に異なる変換効率に依存する電力変換ロスが生じ、このACアダプタによる電力変換ロスは、例えば、図6の上部領域部分(嵩上げされた部分)で表現され、ここでは約1Wの電力消費が常時、発生している。即ち、図6に示す従来例では、ACアダプタが接続された状態にてユーザが電気機器を使用していない際にも、常時、平均1.35Wもの電力ロスが生じていることになる。

20 【0008】一方、特開平11-175174号公報には、安定化電源回路に対して開閉手段を介して交流を供給する際に、負荷の電源保持手段に保持される電圧を電圧検出回路にて測定し、測定される電圧が所定範囲を超えた場合に安定化電源回路の出力を制御し、電圧を所定範囲に收めることで電力消費を節約する技術が示されている。また、特開2000-4547号公報には、交流電源の供給を行うスイッチがオフの場合に、バックアップコンデンサの充電をすべきか否かの判定を行い、スイッチをオンにし、バックアップコンデンサの充電が完了した判定を行うとスイッチをオフにするMPUを備えることで、待機時の電力消費を限りなく零に近づける技術が開示されている。

【0009】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、図6でも説明したように、例えばノートPCに用いられる従来の電源供給装置では、電源オフ時またはサスベンドにおいても、通常のACアダプタでの電力変換ロスは約1Wにもなり、しかもこれは常時発生している。また、機器内部回路による電力消費と比べるとACアダプタでの電力変換ロスは3倍近くになり、電力消費ロスが非常に大きい。

40 【0010】また、特開平11-175174号公報における電源保持手段は、コンデンサを前提としており、電池の場合には大電流が流れ危険な状態となってしまう。更に、開閉手段をオフにするとコンデンサのみで電力供給を行うことから、急激に電圧が下がり、電圧が下がると開閉手段をオンするために急激に電圧が上がってしまう。即ち、電源の出力ラインは電源電圧が大きく変動することから、例えばコンピュータの動作不良などの問題が発生してしまう。また更に、コンデンサでは電源

をオフにできる期間が短いために、電力削減効果は非常に小さいという問題が残る。

【0011】また、特開2000-4547号公報では、同様にコンデンサを前提としており、特開平11-175174号公報記載の技術と同様な問題点が解決されない。更に、電源の出力(AC/DCの出力)電圧は、開閉手段のオン・オフに同期して変動することから、別途、レギュレータが必要となり、大きなコストアップとなってしまう。特に、ノートPCでは、レギュレータで定電圧化しないとLCDのちらつきとなって現われてしまい、また、ACアダプタの出力電圧を直接供給するIEEE1394装置なども誤動作する危険性が考えられる。

【0012】本発明は、以上のような技術的課題を解決するためになされたものであって、その目的とするところは、ACアダプタ等の電源部のオン・オフの切り替えによって、電源部による電力変換ロスを大きく削減することにある。また他の目的は、電源部のオン・オフの切り替えを効果的に使うことで、電力消費ロスを最小限に抑え、環境配慮型機器を実現することにある。

【0013】

【課題を解決するための手段】かかる目的のもと、本発明は、機器本体を使用していない(電源オフ時の)とき(またはサスPEND等の軽負荷時に、バッテリから機器本体に対して電力を供給することで、ACアダプタ等の電源部による電力ロスを低減するものである。即ち、本発明が適用される電源供給装置は、システムに対して外部から電力を供給する電源部と、この電源部から供給される電力に基づいて充電されると共に、充電された電力を放電することでシステムに対して電力を供給するバッテリと、電源部およびバッテリからシステムに対する電力の供給を制御する電力供給制御回路とを備え、この電力供給制御回路は、電源部がシステムに接続された状態にてシステムが電源オフまたは軽負荷時のときに、電源部からシステムに対する電力の供給を停止してバッテリからシステムに対して電力を供給することを特徴としている。

【0014】ここで、この電力供給制御回路は、システムが電源オフ時または軽負荷時のときに、電源部におけるスイッチング動作を停止させて消費電力を低減させること、また、バッテリにおける残容量が放電によって所定量を下回った状態にて、電源部からバッテリに対して電力を供給して充電を行うことを特徴とすることができます。これらの構成によれば、ACアダプタ等の電源部における変換ロスを削減することが可能となり、トータルの電力ロスを低減することが可能となる。ここで、この所定の量とは、残容量が例えば90%、95%等の予め定められた量であり、この定めた量は、電源供給装置によって任意に選定することができる。尚、予め定められた量を含む「以下」であるか、予め定められた量を含ま

ない「未満」であるか、によって差が生じることはない。他も同様である。

【0015】他の観点から把えると、本発明が適用される電源供給装置は、AC電源に接続されると共に電気機器に接続して電力を供給するACアダプタと、このACアダプタから供給される電力に基づいて充電されると共に充電された電力を放電することで電気機器に対して電力を供給するバッテリと、ACアダプタが電気機器に接続され、且つ電気機器が電源オフまたは軽負荷の状況において、バッテリから電気機器に対する電力の供給を賄うように制御するコントローラとを備えたことを特徴としている。

【0016】ここで、このコントローラは、電気機器が電源オフまたは軽負荷の状況にて、ACアダプタの動作を停止するように制御すること、また、バッテリにおける残容量を認識し、認識された残容量が所定量を下回った場合にはACアダプタの動作を開始してバッテリに対する充電を行うように制御すること、更に、バッテリにおける充電の終了によりACアダプタの動作を停止するように制御することを特徴とすることができる。

【0017】一方、本発明は、外部電源から電力を供給する電源部と充放電を繰り返して電力を供給するバッテリとに本体が接続される電気機器であって、このバッテリにおける電池容量を認識する電池容量認識手段と、認識された電池容量が所定量以上であるか否かを判断する判断手段と、本体が電源オフまたは軽負荷の状態にて、判断手段によって電池容量が所定量以上であると判断される場合には、バッテリから本体に対して電力を供給するバッテリ電力供給手段と、電源部の動作を停止する電源動作停止手段とを備えたことを特徴としている。

【0018】ここで、この判断手段は、バッテリ電力供給手段により電力が供給された後の電池容量が所定量以上であるか否かを判断し、バッテリの電池容量が所定量よりも少ないと判断される場合に、電源部を動作させてバッテリへの充電を行う充電手段とを更に備えたことを特徴としている。尚、判断手段によって判断されるための「所定量以上」は、予め定めた量を「超えた状態」とした場合も含まれる。他も同様である。

【0019】また、本発明は、ACアダプタが接続可能であり、且つパワーオフ時でも所定の電力を消費するコンピュータ装置であって、充放電が繰り返される2次電池に接続して電力の供給を可能とする電源路と、パワーオフ時において、接続されたACアダプタの動作を停止させると共に、この電源路を介してバッテリから所定の電力に必要な電力供給を賄うように制御し、また、所定の電力に必要な電力供給を賄うことにより減少した2次電池の残容量を把握し、把握された残容量が所定量を下回った場合には、ACアダプタを動作させて2次電池に対する充電を行うように制御するコントローラとを備えたことを特徴とすることができる。

【0020】一方、本発明は、外部から電力を供給する電源部と充放電を繰り返して電力を供給するバッテリとに接続された電気機器における電源オフ時または軽負荷時の電源供給方法であって、バッテリの電池容量を認識し、バッテリにおける認識された電池容量が所定量以上である場合に電源部の動作を停止させ、電気機器における電源オフ時または軽負荷時の電力供給をバッテリの放電によって賄うこと、更に、バッテリの放電によって変化するバッテリの電池容量を認識し、認識された電池容量が所定量より小さくなつた場合に電源部を動作させ、電源部からバッテリに対する充電を行うことを特徴とすことができる。

【0021】

【発明の実施の形態】以下、添付図面に示す実施の形態に基づいて本発明を詳細に説明する。まず、本実施の形態が適用された装置等の詳細な説明に入る前に、本実施の形態が適用された電源供給方法の概要について説明する。図1(a), (b)は、本実施の形態による電源制御方法による電力ロスを示した図であり、図1(a)はその第1の態様を、図1(b)はその第2の態様を示している。図1(a), (b)では、共に、ACアダプタが接続される一方で、装置本体はパワーオフ(電源オフ)になっている状態を想定しており、それぞれ、横軸は時間を示し、縦軸は電力消費を示している。本実施の形態では、ユーザの使用していないパワーオフの状況では、電池で一部回路の動作を補い、ACアダプタは電池を充電するときだけ動作させるように構成している。

【0022】まず、定期的に電池(2次電池)を定めた容量(図1(a)では総容量の10%)だけ充電する。充電後、ACアダプタの動作を電気的にオフし、機器回路の電力消費を電池で賄う。その後、電池の容量が定めた量(図1(a)では総容量の10%)だけ減ったら、即ち、残容量が90%となつたら、ACアダプタをオンにし、電池を再び定めた容量(図1(a)では総容量の10%)だけ充電する。その後、再度、ACアダプタの動作を電気的にオフし、本体回路の電力を電池で賄う。以上の制御を繰り返すことで、従来のACアダプタによる電力変換ロスは、電池の充電中しか発生しなくなり、ACアダプタによる平均電力ロスをほぼ0にすることが可能となる。

【0023】図1(b)では、充電する際の定めた電池の容量を総容量の5%とし、総容量の5%を充電した後に、ACアダプタの動作を電気的にオフし、機器回路の電力消費を電池で賄っている。その後、総容量の5%だけ電池の容量が減った場合に、即ち、残容量が95%になつたら、ACアダプタをオンにし、定めた量である総容量の5%だけ充電し、再度、ACアダプタの動作を電気的にオフし、本体回路の電力を電池で賄う。以上の制御を繰り返し行うことで、平均電力ロスをほぼ0にすることができる。

【0024】尚、この図1(a), (b)では、電源オフの

状態を例に示したが、一定時間入力がない場合に、プログラムの実行状態を保ったまま一時停止して電源を切るサスペンド、他の省電力モード等の軽負荷時にも適用することができる。このような場合には、例えば、CPUやメモリなど、データを保持するために最低限必要なハードウェアに対して電源が供給されることとなり、図1(a), (b)に示される電力消費の値が異なってくる。

【0025】次に、本実施の形態が適用された装置等を詳細に説明する。図2は、本実施の形態が適用された電源供給装置の全体構成を説明した図である。同図では、AC電源に接続されてAC/DC変換を行い電源を供給するための電源部であるACアダプタ10、充放電を繰り返して電源を供給するための2次電池であるバッテリ20、ノートPC等の電気機器に内蔵されて本体回路に電源を供給するためのシステム30とに大きく分けられている。このACアダプタ10からは電圧V_{acdc}の供給路である電源路36を介して本体回路に電源が供給され、バッテリ20からは電圧V_{batt}の供給路である電源路37を介して本体回路に電源が供給される。

【0026】このACアダプタ10は、AC電源からの入力電圧を受ける高電圧側の一次側回路11、一次側回路11から絶縁されてシステム30に電圧V_{acdc}を出力する二次側回路12、システム30のコントローラ31からの指示によって一次側回路11に伝達するためのフォトカプラ13とを備えている。尚、ACアダプタ10の詳細な内容については後述する。バッテリ20は、リチウムイオン電池等からなる電池21と、この電池21に関わる残容量等のデータを取得してシステム30との通信を行なうことができるCPU22とを備え、インテリジェント電池として機能している。但し、CPU22の機能をシステム30側に持たせ、バッテリ20をダム電池として構成することも可能である。

【0027】システム30は、本実施の形態における電源供給装置を制御するコントローラ31の他、DC/DCコンバータ32、チャージャ33を備えている。DC/DCコンバータ32は、例えばACアダプタ10から約1.6V、バッテリ20から約1.0Vを入力電圧(V_{in})とし、本体回路に対して約1.6Vの出力電圧(V_{out})を供給している。また、チャージャ33は、ACアダプタ10からバッテリ20への充電を実行できるように機能している。コントローラ31は、バッテリ20のCPU22からバッテリ20の状態を把握する他、ACアダプタ10、バッテリ20およびチャージャ33を制御している。

【0028】即ち、バッテリ20がインテリジェント電池である場合(CPU22を内蔵し、各種電池に関わるデータを取得してシステム30との通信機能を備える場合)には、通信機能を用いて、システム30のコントローラ31に対して電池21の容量データを送る。この容量データはコントロールライン(COMM)を介してコン

トローラ31に対して送出される。バッテリ20がCP
U22を有していないダム電池の場合には、システム3
0内部で電池電圧を抵抗(R1)34と抵抗(R2)35を
用いて分圧し、コントローラ31のIN端子に入力して
A/D変換することで、電池電圧を検知することが可能
である。この電池電圧を読むことができれば、コントロ
ーラ31はおおよその電池容量を推定することが可能
である。

【0029】ここで、システム30のコントローラ31
がOUT端子にローを出力すると、ACアダプタ10内
部のフォトカプラ13がオフとなる。フォトカプラ13
がオフのとき、一次側回路11は通常動作(スイッチ
ング)を行い、二次側回路12に電圧V_{acdc}を出力する。
出力された電圧V_{acdc}は、チャージャ33を通じてバッ
テリ20に供給され、バッテリ20における電池21の
充電に用いられる。電気機器の本体回路が動作中であ
れば、この電圧V_{acdc}は、DC/DCコンバータ32を介
して本体回路に供給される。ACアダプタ10をオフす
るときには、コントローラ31は、OUT端子にハイを
出力する。このとき、ACアダプタ10内部のフォトカ
プラ13がオンとなり、一次側回路11はフォトカプラ
13がオンしたことを検知して、スイッチング動作の停
止および不必要的回路の動作を停止する。このとき、A
Cアダプタ10の出力電圧は0Vとなる。この状態にお
けるACアダプタ10の電力ロスは、実質上0Wと見な
すことができる。

【0030】図3は、ACアダプタ10の構成を更に詳
述した図である。一次側回路11側では、ブリッジダイ
オード(D5)51、コンデンサ52を備え、交流電源か
らの入力に対して全波整流を行っている。また、PWM
コントローラ(PWM IC)53、フォトトランジスタ
(TR1)54、フォトトランジスタ(TR2)55、トラン
ジスタ(TR3)56、トランジスタ(TR4)57の他、複数の抵抗
やダイオードを備えている。一方、トラン
ジスタ50を介して設けられる二次側回路12では、フォ
トカプラ(D1)61、ツェナーダイオード62、およ
び、整流して平滑化を行うためのダイオード(D3)63
とコンデンサ64とを備えている。

【0031】今、コントローラ31からのCTRL信号
がハイになると、二次側回路12に接続されたフォトカ
プラ13がオンとなり、これを受けた一次側回路11の
フォトトランジスタ(TR2)55がオンとなる。このフォ
トトランジスタ(TR2)55がオンすると、トラン
ジスタ(TR3)56がオフになり、PWMコントローラ
(PWM IC)53に電源V_{cc}が供給されなくなる。そ
の結果、トランジスタ(TR4)57のスイッチング動作
が停止され、ACアダプタ10は低電力状態(数十mW
程度)となる。CTRL信号がローのときは、フォトト
ランジスタ(TR2)55がオフで、トランジスタ(TR
3)56がオンする。トランジスタ(TR3)56がオン

のときには、電源がPWMコントローラ(PWM IC)
53に供給されるので、トランジスタ(TR4)57は通
常のスイッチング動作を行い、二次側回路12の電圧V
_{acdc}に規定電圧が出力される。

【0032】尚、上記の例ではスイッチング動作を停止
させ、PWMコントローラ(PWM IC)53の電源をオ
フすることでACアダプタ10を低電力状態に制御し
た。更に別の方針として、AC電源とACアダプタ10
の間(AC電源とブリッジダイオード(D5)51の間)
10に、開閉手段を設けることも考えられる。この開閉手段
としては、メカニカルなリレー回路や、半導体のトライ
アップ等を採用することができる。ここで、CTRL信号
がハイのときに開閉手段を開けば(オフにすれば)、A
Cアダプタ10の電力をほぼゼロにことができる。
また、動作させるときには、CTRL信号をローにして
開閉手段を閉じる(オンする)ことで、ACアダプタ10
を動作させて電圧V_{acdc}を出力することができる。

【0033】次に、本実施の形態における電源制御方法
について説明する。図4は、本実施の形態が適用された
20電源制御方法における処理の流れを示したフローチャー
トである。電源オフ時にあっても機器の本体回路は動作
をしていることから、本体回路に対して電源を供給しな
ければならない。そこで、まず、コントローラ31のO
UT端子をローに設定し(ステップ101)、本体回路へ
の電源供給を行っている。ここで、ACアダプタ10が
接続されているかどうかの判断が行われる(ステップ1
02)。ACアダプタ10が接続されていない場合には、
ステップ102の手前に戻り、電池から電力を供給す
る。ACアダプタ10が接続されていれば、次に電池
30であるバッテリ20が接続されているかどうかの判断が
行われる(ステップ103)。ここで、電池であるバッテ
リ20が接続されていない場合には、OUT端子にロー
を出力して(ステップ104)、ステップ102の手前に
戻り、ACアダプタ10は従来と同じ動作を行う。

【0034】ステップ103にてバッテリ20が接続さ
れている場合には、バッテリ20における電池容量(残
容量)の判断が行われる(ステップ105)。即ち、前述
したように、バッテリ20がインテリジェント電池であ
る場合には、コントローラ31はバッテリ20と通信す
ることによって、容量データを取得することができる。
バッテリ20がダム電池である場合には、上述のように
電池電圧を検知する方法によって簡易的に電池容量を
得ることができ。ここで、電池容量が例えば90%より
少ない場合に、一回目のフローでは関係ないが、OU
T端子がハイであればローに設定して(ステップ106)
(一回目のフローではローのままで)、バッテリ20に
おける電池21の充電が行われる(ステップ107)。

【0035】その後、ステップ107により充電が行わ

れた後に、充電が完了したかどうかの判断が行われる(ステップ108)。即ち、取得した電池容量が100%であるか否かが判断される。ここで、充電が完了していない場合(電池容量が100%でない場合)には、ステップ107に戻り、更に充電が行われ、電池の充電が完了するまでループする。電池の充電が完了した場合には(電池容量が100%になったら)、OUT端子がハイに設定される(ステップ109)。また、ステップ105にて電池容量が90%以上である場合には、同様に、OUT端子がハイに設定される(ステップ109)。このようにしてコントローラ31のOUT端子をハイに設定することで、ACアダプタ10の動作が停止され、電池で本体回路が駆動されることとなる。この状態において、ACアダプタ10による電力ロスは発生しなくなる。

【0036】ステップ109の後に、ステップ102の手前まで戻り、これらの処理が繰り返される。一定時間(例えば、数十時間)、本体回路を駆動すると、次第に電池容量が減っていき、ステップ105にて電池容量が90%よりも小さくなつたことをコントローラ31が検知すると、OUT端子のハイをローに設定して(ステップ106)、バッテリ20における電池21の充電が行われる(ステップ107)。その後、上述と同様な流れで電源の制御がなされる。

【0037】次に、本実施の形態による効果を具体的な数値を用いて説明する。まず、バッテリ20に用いられる電池21は、セルあたり1.8Ahの容量を持つリチウムイオン電池であり、2並列3直列の6セル構成とする。また、電池21の平均電圧を3.7Vとする。かかる場合、この電池21の容量は、 $1.8(\text{Ah}) \times 2(\text{cells}) \times 3.7(\text{V}) \times 3(\text{cells}) = 40(\text{Wh})$ である。従って、電池容量90%から100%間の容量は約4(Wh)になる。

【0038】ここで、電池21を充電するときのACアダプタ10の変換効率を83%とすると、残容量90%の電池21を100%まで充電するために必要な電力は、

$$4(\text{Wh}) / 0.83 = 4.82(\text{Wh})$$

である。機器の電源がオフのときに内部回路で消費する電力が0.35Wの場合、電池21の容量が100%から90%に減るのに要する時間は、

$$4(\text{Wh}) / 0.35(\text{W}) = 11.42(\text{Hours})$$

となる。従って、電源がオフのときに消費する平均電力は、

$$4.82(\text{Wh}) / 11.42(\text{Hours}) = 0.42(\text{W})$$

となる。この平均電力のうち、電気機器本体の内部回路による電力消費が0.35Wであるから、ACアダプタ10による電力消費ロスは平均で0.07W、即ち、70mWになる。従来のACアダプタによる電力消費ロスが1Wであったことと比較すると、本実施の形態におけるACアダプタ10では、93%もの電力消費ロスを回

避したこととなり、飛躍的に効率が上昇していることがわかる。

【0039】図5は従来のACアダプタによる電力消費と本実施の形態におけるACアダプタ10による省電力効果をグラフで表した図である。ここでは、(a),(b),(c)の3つの機種について例を挙げており、それぞれ、縦軸は電力消費量を示している。(a)は機器内部回路による電力消費(System Power Dissipation)が0.35Wの場合、(b)は機器内部回路による電力消費が0.25Wの場合、(c)は機器内部回路による電力消費が0.1Wの場合を示している。AC電源による電力消費ロスは、(a)では、1Wから0.07W(70mW)まで減少している。また(b)では、0.83Wから0.05W(50mW)まで減少している。更に、(c)では、0.67Wから0.02W(20mW)まで抑えることが可能となる。

【0040】このように、数値的に比較して明らかに、本実施の形態によれば、ACアダプタ10のスイッチング動作を停止させて出力電圧をオフすることによって、電力消費のロスを大幅に抑えることができる。また、ACアダプタ10を接続している場合、電源オフ時の消費電力と、サスペンド時の消費電力はほぼ同じ値を示している。したがって、本実施の形態が適用された電源装置により、省エネルギー法である「エネルギー消費効率」の値も、大幅に改善することが可能となる。

【0041】尚、本実施の形態が適用された電気機器を使用するユーザが、ACアダプタ10が接続されているにも関わらず、電池21の容量が減っていってしまうことに違和感を覚えてしまう可能性がある。このような場合、電池21の実用量の10%を本実施の形態の目的だけに使用することとして、残りの実容量90%を総容量データ100%としてユーザに表示するように構成することができる。このように構成すれば、ユーザにとって、表示された見かけ上の残容量は気にならなくなる。また、他の方法として、本実施の形態における充電時には、充電していることを示す表示を止めることができる。これらの表示方法によって、ユーザは、本実施の形態における、ACアダプタ10の接続時における電池21からの放電や、電池21の再充電の動作を認識しなくなる。

【0042】また、本実施の形態では、ACアダプタ10の接続時にも常時、電池21から放電し、容量が例えば90%になると再充電を行っている。そのことから、電池21のサイクル・ライフに対する影響について考察する必要がある。図5に示した例の中で、(a)に示す消費電力が0.35Wの場合がワーストケースである。この場合、約11.4時間で電池の残容量が100%から90%に減ってしまう。従って1年間で最大約770回の充放電を繰り返すことになる。現在、ノートPCで主流となっているリチウムイオン電池を例にとると、本

実施の形態の充放電を100%の充放電に換算すると約30回分に相当する。リチウムイオン電池の充放電サイクル・ライフ(電池の総容量が初期容量の60%になるまでに要する充放電サイクル数)は500回以上であることから考えると、本実施の形態がサイクル・ライフに与える影響は小さく、本実施の形態を採用するに当たってサイクル・ライフへの問題は生じない。尚、本実施の形態ではノートPC等の電気機器をもとに説明したが、例えば、充電池を内蔵する自動車等にも応用することが可能である。

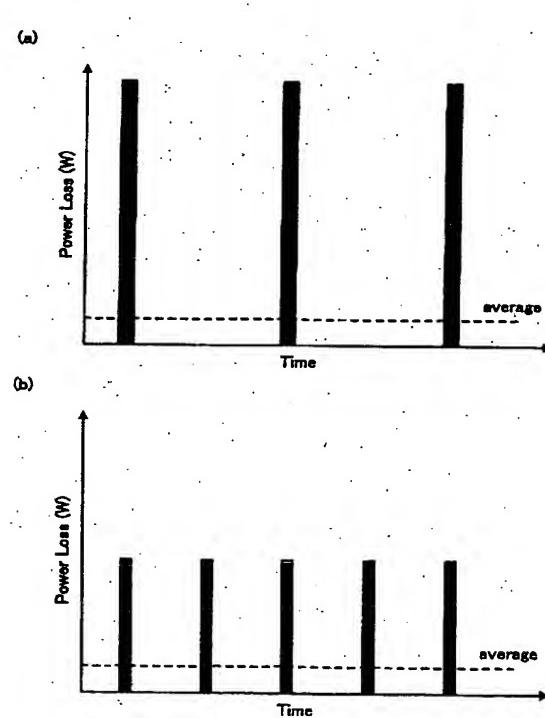
【0043】

【発明の効果】以上説明したように、本発明によれば、ACアダプタ等の電源部を接続した電気機器等において、電源オフ時や軽負荷時における電力ロスを大幅に削減することが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】(a), (b)は、本実施の形態による電源制御方法による電力ロスを示した図である。

【図2】本実施の形態が適用された電源供給装置の全



【図1】

体構成を説明した図である。

【図3】ACアダプタ10の構成を更に詳述した図である。

【図4】本実施の形態が適用された電源制御方法における処理の流れを示したフローチャートである。

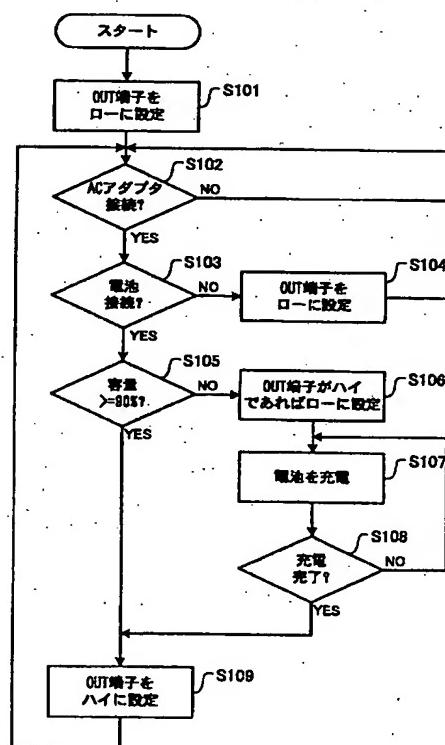
【図5】従来のACアダプタによる電力消費と本実施の形態におけるACアダプタ10による省電力効果をグラフで表した図である。

10 【図6】従来のACアダプタを使用した際、電源オフ時である無負荷時における電力消費の状態を示した図である。

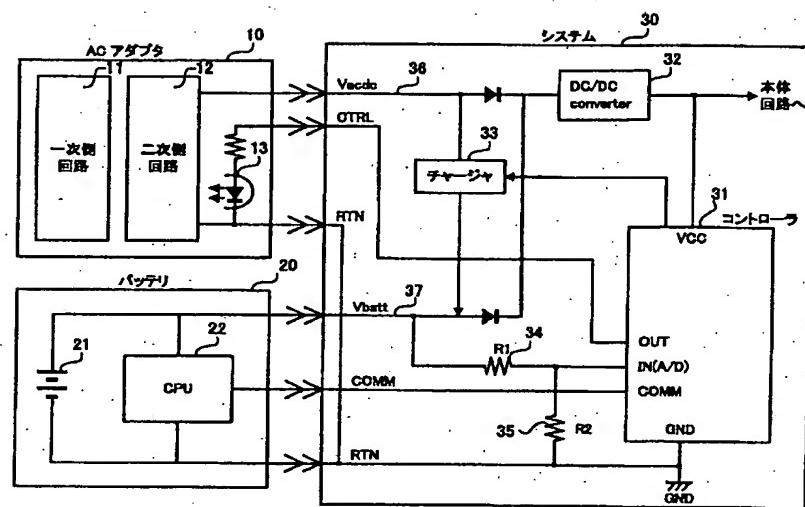
【符号の説明】

10…ACアダプタ、11…一次側回路、12…二次側回路、13…フォトカプラ、20…バッテリ、21…電池、22…CPU、30…システム、31…コントローラ、32…DC/DCコンバータ、33…チャージャ、34…抵抗(R1)、35…抵抗(R2)、36,37…電源路

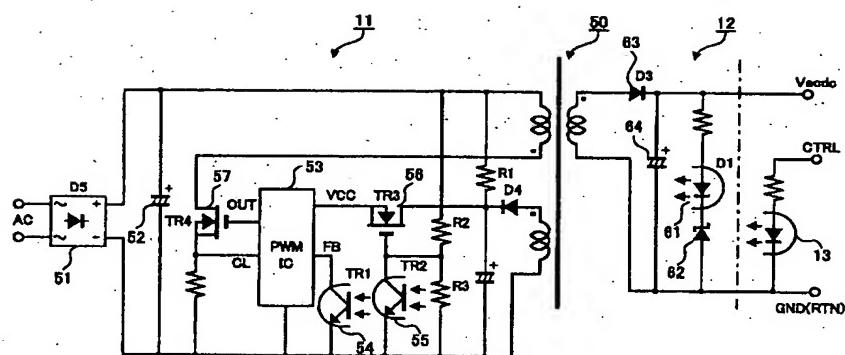
【図4】



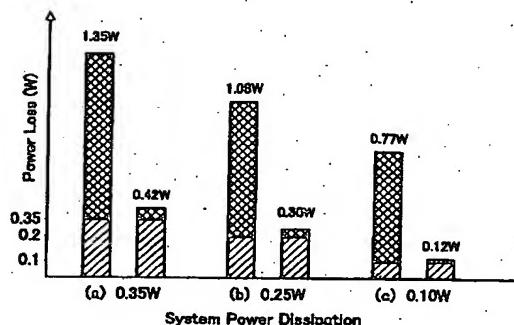
【図2】



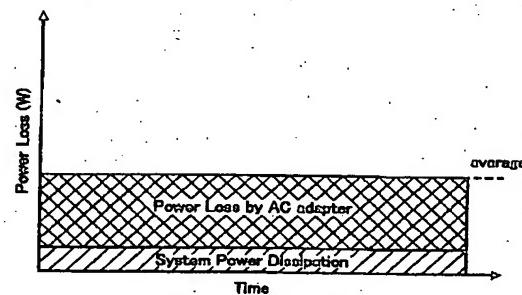
【図3】



【図5】



【図6】



フロントページの続き

(51) Int.Cl.7

識別記号

H 0 2 J 7/34

F I

テ-マ-コ-ト(参考)

G 0 6 F 1/00

3 3 0 F

3 3 2 Z

F タ-ム(参考) 5B011 DA02 DA13 DB21 EA04 EA10
GG04 JB01 LL11
5G003 AA01 BA01 CA12 CA16 CC02
DA12 DA13 GA01 GA10 GB04
GC05
5G065 AA01 DA06 EA02 EA06 GA06
HA04 HA16 JA07 KA02 KA05
KA09 LA01 MA06 NA05 NA07
NA09
5H030 AA03 AS11 BB01 BB21 BB27
FF42 FF44